

## PC 関連資料 (その2)

SAC SIS 2003/2004 組織委員各位:

2003 から 2004 への申し送り事項です.

プログラム担当をしながら気付いたことをメモしたもののベースにしているの  
で, 努力してかなりまとめましたが, それでも長いです. すいません.

ごしま

組織委員会へ:

・広報委員長とプログラム委員会の『距離』を短くすべき. (山名, 五島)

CFP の内容, Web ページと編集システムのリンクなど, PC 関連の仕事が多い.  
距離が遠いと, 『CFP でフォーマットはどう指定したっけ?』てな感じで,  
責任が不明確になる.

プログラム担当が広報を全部やるのは, 仕事量的にダメ(中島)

- 広報委員長をプログラム副委員長(広報担当)にする
- ポスター担当プログラム副委員長が広報担当を兼務する
- Web ページの立ち上げ後は, その管理を PC に委譲する

・投稿×切(1 月末)が卒論/修論の×切と重なっている. 長さの違う 2 つの論  
文を書くのはしんどい.

卒論/修論の諮問会の 1 週間後あたりだと best か.

実現するなら SAC SIS'05 あたりで, 開催時期を 1 月ずらす必要がある.

プログラム委員会へ:

・査読する側の問題

以下で述べる問題の多くが, 投稿する側ではなく, 査読する側に起因している.

+ 査読のポリシー:

『オリジナリティ溢れる論文, 実装・開発事例等も含め有用性の高い論文, 実用性を重視した基盤に関する論文を広く募集』とか,

『芽的研究段階にある論文を積極的に採用できるように short 論文』など

が, 査読者全員にまでは必ずしも浸透していない.

- プログラム委員会側の説明不足

- 査読者が漫然と査読している

+ 『項目別採点』などの査読報告フォーマットは, この辺りの問題を解決するためという面もあるのではないか?

- しかし, JSPP から SACSIS になって, 『項目別採点』の項目を見直さなかった.

- また, 『項目別採点』の項目が ACS のそれと微妙に異なり, 紛らわしい. (後述)

SACSIS と ACS は別物であるので必ずしも同じである必要はないのだが, ACS と SACSIS で募集する論文の雰囲気 (originality/practicality のどちらを重視するかとか) が違っている訳ではなく, 同じであった方が査読者は楽.

ちなみに, JSPP/SACSIS の項目の方が, ACS のそれよりすっきりしていると思う(下表参照).

+ 査読報告のアップロード・ページをもっと foolproof にする(後述).

+ 採択会議の欠席者が多い. 欠席率: 11/38

特に当落線上の論文の場合, 担当 PC が欠席していると, 落としにくい.

最優秀学生論文賞の決定にも影響がある. (後述)

PC 就任依頼時に採択会議への出席を確認できないか?

=> PC メンバ, 査読者の commitment の度合いに依存しないシステム作り?

+ とりあえず, 『プログラム委員の手引き』を作った方がよい.

- 『情処研報は既発表にならない』『信学技法は...』

- 『査読者に断られた場合、代わりを見つけるのは担当 PC』

+ 上記と関連して『担当論文の査読協力者は、なるべく当該担当が推薦した人の中から選ぶ』とすると、困ったちゃんな査読者を排除できるかも。

#### ・short paper の問題

シンポジウム全体が有用性(も?)重視にシフトしていくなかで、アイディア勝負(倒れ?)の研究の発表の場は、非常に重要だと思う。

が、現状 必ずしも有効に活用されていない。

+ long ではダメだが short に revise するなら可 という意見が必ず出る。

+ 『(4p に収めるのは困難だとは思うが)説明不足』という査読報告が必ずある。

『萌芽的』段階にあることと論文/発表の短さとは、必ずしも関係ないのである？ 実際、『萌芽的』な論文でも、情処研報 6p でもかなりキツイ。ある程度ちゃんとした内容を 4p できちんとまとめるのはかなり難しいのでは？

=> short を止め、work-in-progress などと名前を変えて、8p としてはどうか？  
項目別評点を変える？ 『有用性』を問わないとか。

すると、Regular ではダメだが WiP なら とか可能になる。

査読フォームに『WiP への変更を推奨しますか？』項目を設けるなどして、積極的に進めるか？

5/30 PC 会議での意見：

- short である理由を著者に問う
- 査読フォームに説明を書き、long と別なものにする
- long の査読基準は会議として一貫性が求められるが、short の方は多少 flavor がはいてもよいだろう
- 回を重ねれば落ち着くかもしれない

#### ・(最)優秀学生論文賞

+ 学生優秀論文賞でよいのか？

学生を encourage するため、そのままよい(@5/30 PC 会議)。

(学生でない)論文賞 \*も\* あってもよいと思うが、そういう議論はなかった。

- + 優秀論文賞を決めたが \*最\* 優秀を決めなかった。

最優秀を決めるプロセスをあらかじめ決めていなかった。

例年、推した人が応援演説をして挙手で決めていたが、'03 では担当 PC が(一部)欠席だったため、それができなかった。

優秀 x3 か最優秀を決めるか、挙手で採決、優秀 x3 でよかろうということに。

来年は最優秀を決めるプロセスを考えてほしい。(横川)

最優秀論文決定委員会？

採択会議(3月中)からプログラムの決定(GW 前)まで 1.5 ヶ月はある。

#### ・査読トラックの問題

- + 論文の当落の判断をトラック任せにするのはよくない。会議としての一貫性を保つため、OC、あるいは PC 全体が制御すべき(横川)

しかし実際問題、OC が個々の論文の当落を見るのは不可能。

'03 では、問題になりそうな論文：

1. 当落線上の論文、
2. 点が割れている論文、
3. 上記 1, 2 で、なおかつ、担当 PC が欠席の論文

に対して予めプログラム委員長、副委員長が議論して、ガイドラインを作り、当日口頭で説明した。一定の効果があったと信じたい。

- + 境界領域の論文に関しては、査読者を多めにできないか？(@5/30 PC 会議)

SACIS としての領域に入るか入らないかという論文が最終的にたらいまわしにされる。

- + 上記と関連して、今まで CPSY が担当してきた ^; どのトラックでも読みにくい論文を、'03 では HPC トラックに全部読んでもらった ^;。

また下記の論文等、募集要項に入っているのに、最適な PC メンバがいなかったり、足りなかったり。

- 『MPEG-4 による実時間コンテンツ編集システムの提案』
- 『大規模コーパスの任意文字列に対する一般化文書頻度の計数』
- 『要求駆動による遠隔 XML データ処理の効率化』
- 『Aerie: WWW のための完全分散型匿名プロキシ』

PC メンバを選ぶ際に、募集テーマとの擦り合わせが不完全だった？

研究会と 1 対 1 にトラックを設定することに無理がある？

- + 論文のトラック分けは、基本的にプログラム担当が一人でやったが、能力不足でうまくいきませんでした。専門外は分からないし。

論文×切から割り当て会議までに時間がなく、プログラム委員長、副委員長で見ている余裕はなかった。

下記 ×切の問題と関連して、登録時に abstract があると、かなり楽になるかも。

#### ・×切の問題

チキン・レースにしないためには、ハード・リミットを暗示、または、明示する必要がある。

特に、ポスター論文は、印刷できないと本気で困るので、来たヤツから印刷することになるが、その後で修正稿がポロポロとアップロードされてくる。  
『差し換えのお願い』を含め、submit を一回にさせることが、事務上重要。

1. 登録×切 ソフト・リミット(公開)
2. 登録×切 ハード・リミット(公開/非公開)
3. 論文アップロード ソフト・リミット(公開)
4. 論文アップロード ハード・リミット(公開/非公開)

として、

- 1+2+3+4 : 現行
- 1 2 3+4 : おすすめ

- 1 で投稿数が少なかった場合に、2(1週間後)まで延長。  
そのため、3 を 2 の 1 週後、1 の 2 週後に。

- 登録リミットとアップロード・リミットが分かれていれば、アップロード・リミットを守らないような悪質な投稿者は少ないと思う。単に、ギリギリまで revise したいだけだと。

- アップロード ソフト・リミットを延長すると、それ以前にアップロードした人に再アップロードを許す必要が生じ(?), 事務負担が増える。

アップロード・リミットは延長しない/できない旨、CFP に明記しておく  
とよいと思う。

- 投稿フォーマットを PDF に限定すると、\*気分的に\* 楽だが、今時 印刷できない PS は(ほとんど)ないので、手間はあまり変わらない。ちなみに、PS 率は 2 割弱。ただし、PS が印刷できないので PDF に変換して という査読者は、少しだがいる。PDF が見えないという査読者も 0 ではない。

・CFP あたりで、いろいろ不明確

- + 同時投稿がどんなものか分かっていない人がいた。ひょっとしたら多いのかも。
  - SACSIS/ACS 第 1 稿は 8p だが、ACS 第 2 稿は制限なしであること。
- + 投稿フォーマット、カメラレディ原稿フォーマットが、今一つ不明確だった。ACS 論文誌と『同様』とは、正確には？
  - 『ACS と同様』ということは、biography が必要なのか？』という質問があった。尤もなこと。
  - 投稿論文をカメラレディで ACS フォーマットに合わせたら 10p になったが、どうしてくれる という質問があった。

+ LaTeX スタイル・ファイルについて

上記に関連して、2 割も余分に詰め込むという行為を許すのか。2 割も余分に書いてある内容を、同じ 20 分で発表できると考えるのか。

『ACS と同様』には、行数、文字数まで含まれるという気分があったような気がする。しかし、LaTeX スタイル・ファイルを使わない人には、そこまでは分らない。

ACS に同時投稿する著者に対しては『LaTeX のスタイル・ファイルを使い』で済む(カメラレディが LaTeX のみだから)が、SACSIS 単独の人には言いづらい。言ってもいいのかも知れないが、議論が必要。

ちなみに、ACS LaTeX スタイルの未使用率は 2 割前後(下参照)。使っていない和文の論文には明らかな詰め込み傾向が認められ、使えないからではなく、詰め込みたいから使っていないように見受けられる。

SACSIS スタイル・ファイル(ヘッダのみ ;-)があってもよいかも。

+ ポスターのフォーマットも更に不明確だった。

<a href="http://www.hpcc.jp/sacsis/poster.html">募集要項</a> には、『JSPP の論文形式に準じます。(例 JSP2002

<http://www.hpcc.jp/jspp02/>)』とだけ、リンク先では、コラム数の指定がなく、結局 1-column の論文をそのまま受け入れることに、

また、ポスターの abstract の有無が不統一になってしまった、

+ これらも、募集要項を広報委員長におまかせにしたせいと言えなくもない、

#### ・同時投稿の問題

+ 5/15 の ACS 編集委員会において、ACS 論文のページ数に制限がつくことが望ましくないとの意見が出された。ページ数制限は SACSIS 側の問題であること、別論文として投稿することは可能であること、などが議論され、ACS としては特に行動は起さないことに決まった。

SACSIS でも、著者に一定の負担を求めて、ページ数制限を緩和するなんてこともあるやも、

別刷代がただなのはどうかとも思う、

とりあえず、著者に対して同時投稿のしくみを明確にする必要はある、

+ ACS ではメタ・レビューだが、SACSIS では担当プログラム委員で 1 of 3. まじめにやろうとすると、まず 他の査読者の報告を見ないで SACSIS の報告を書き、他の査読者の ACS 報告を読んで ACS 報告を書くとなる、徒にルールを複雑化しているだけのような気がする、SACSIS でもメタ・レビューでよいのでは？

#### 投稿システム管理者様へ：

・(ACS と異なり) 査読報告の不備が非常に多く、修正をお願いするのが大変、

「記載要領」を読んでもくれる査読者は非常に少なく、submit 後に報告の見映えを確認せずに confirm する査読者は意外と多い、

+ アップロード・ページをもっと foolproof にする、

現在アップロード・ページは WYSIWYG 風になっているが、アップロード・ページと出力される報告は、違っていいいいのでは？

重要事項は、「記載要領」だけでなく、アップロード・ページにも書く、

- 入力形式がプレーン・テキストなのに、HTML と指定して、改段落

がなくなっている報告が多い。

=> 入力形式のデフォルトは、プレーン・テキストの方がよい？

- 関連して、itemize のつもりが、1 つの段落になっている報告が非常に多かった。'03 では、あまりに多かったので無視した。

=> itemize の書き方をアップロード・ページに(も)書く。

- 「査読論文の概要」がない報告が多かった。ACS の査読報告には、どうせ書かないといけないことなので、『第 1 段落に査読論文の概要を...』という文を読んでいないだけ。がんばって書いてもらったり、『こちらでコピー&ペースとします』とメールを送ったり。

=> ACS と同様に、「査読論文の概要」の入力領域を「採点の理由 (Justification for rating)」から独立させる。

- PC が採択論文決定会議に欠席するときに、「査読論文の概要」, 「採点の理由 (Justification for rating)」が判定の根拠になることが理解されていないようで、読んだ人にしか分からない報告になっていることが多い。

=> アップロード・ページに書く。

- 「総合評点」が 5 点満点だと勘違い。明らかにおかしいものに関しては、メールで確認した。

=> 「総合評点」を 1~9 ではなく、1.0, 1.5, ..., 5.0 とする。

- 逆に、「採点の理由」と「著者へのコメント」が著者に送られ「委員会へのコメント」が送られないことが、アップロード・ページには書いていない。

=> アップロード・ページにも書く。

#### + 修正を楽にする

- HTML のエラーなど査読報告の軽微な誤りは、プログラム担当が直してしまった方が圧倒的に楽。'03 では、かなり自分で直した。

Windows 系のエディタの仕業か、本人がそのつもりもないのに HTML になっていて、空白であるべき (ACS で採録の場合の不採録理由など、処理されて消える) テキスト入力フォームにゴミが入っていたりする。そういうのは、修正を依頼しても絶対に直らない。



プログラム担当が修正することがある旨、どこかに予め書いておく  
とよいと思う。

『失礼ながら、こちらで修正しました』メールを送る手間が余分。  
査読報告の不具合の修正依頼メールの送信を、投稿論文の印刷不能  
の場合と同様に、(半)自動的ににならないか。修正しましたメール  
も自動的に送れると better。

- 査読報告 ver.2 のアップロード時に：

1. 単なるボタンの 2 度押し(フレームの問題？)
2. 無断で修正稿をアップロード

などが多い、本人にそのつもりがないため、事情説明の督促メール  
も無視されがち。結果、査読報告の確認作業の少ない部分をこ  
れらの確認(ダウンロードして、diff をとる)のために費やした。

- サイズが 0B なら警告する。

- 査読報告の第 n+1 稿がアップロードされたとき、第 n 稿と  
diff をとる。 1

- 編集者が予め許可しない限り、第 n+1 稿のアップロードを禁止。  
1 & 2  
これは、基本設計を引っ張り返している？

・「記載要領」

+ 誤植

- 項目別評点

...

practicality of the work      practicality in real world

- "referee's confidence" の項目は、査読者の専門知識と査読の詳  
細さの両方を勘案して 2 ~ 4      2 ~ 5

+ 「項目別評点」にも、ACS のそれと同程度の説明があるとよい。

・投稿時の論文カテゴリの申請

役に立たなかった。分かる論文はタイトルのみで分かり、分からない論文は  
relevant でないカテゴリで申請してある。

カテゴリは査読トラックにのみ影響するので、査読トラックに即したカテゴリを考慮すべきかも。

査読者のカテゴリと(ある程度)連動させられないか？

・英文タイトル、著者、所属

+ 登録情報に、

- 英文タイトル、著者、所属
- アブストラクト(和文/英文)

があった方がよい。

- プログラムにアブストラクトが載せられる
- 英文プログラムが簡単に作れ、英文 Web ページに載せられ、海外からの招待講演者に見せられる。

+ 英文論文の場合、著者名も英文で登録するようにしてもらった方が、目次作成時に便利。今はバラバラ。

・その他

+ (確認)査読者の負荷状況を採択会議で分かるようにする。

+ 『投稿者』、『採択論文の著者』、『ポスター採択論文の著者』、『査読者』、『担当 PC』などにメールを送るときのアドレスのリストの抽出が手動。

+ Subject: SACSIS'03: list of accepted papers

SACSIS'03の採択論文一覧を同封しますので、目次作成に利用して下さい。

のメールは、タイトルが不完全、著者名と所属がないので、目次作成には利用しにくい。

+ 作業の通し番号が4桁になると、表示が切れる。

プログラム担当様へ:

・割り当て会議への PC の出席を主催研究会にお願いするのを忘れた。

・査読協力者を推薦してもらうときに、協力者の専門を聞いておくのを忘れた。  
- 氏名

- ふりがな(ソートするのに便利)
- 所属(略称 and 正式名称. 正式名称は後で名簿に使う)
- メール・アドレス
- 査読トラック,あるいは,所属研究会
- 専門
- 連絡先,電話番号(重要.メールを読まない人がいる!)

も聞いておくべき.

・査読協力者を推薦してもらう以前に,できれば PC メンバを選択する以前に,  
査読トラックについて議論しておくべき.

・採択論文決定会議の出欠確認時に,欠席の場合 論文の当落は PC に一任する旨 確認する.

・原稿執筆依頼

採否決定(3月中旬)後に学会から『原稿執筆依頼』が郵送される(4月初)が,その文面をこちらで確認する必要があり,このプロセスは無駄.遅延が大きく,郵送費もかかる.また,物理郵便は,学生宛には,かえって届かないことがある(あった).学会側でも省略したく思っていて,実際 '03 のポスターではメールで済ませた.

=> 原稿執筆,講演依頼をメールで,採否通知と同時,あるいは,直後に.

- + カメラレディ原稿の〆切が4月半ばになるので,そのときに海外出張しているとかないように,採否通知のタイミングで注意する.
- + 『原稿執筆,講演依頼』には,発表時間を書くべき.特に short.
- + プロジェクトが使える場合,PC は用意しない旨 書いた方がよい.質問があった.

ACS 編集委員会へ:

・『項目別評点』の項目

ある査読者からの意見:

「有用性 (significance)」となっていますが,「significance」を「重要度」と理解して採点しました。SACSYS の評価フォーマットでは「practicality in real world」という項目があり,こちらの方が「有用性」という言葉に相応しいと思いました。ちなみに SACSYS の評価フォーマットには「practicality in real world」という項目の他に

「significance of the work」という項目もあります。

ACS	JSPP/SACIS
a. 論文誌研究分野への関連性 (relevance)	relevance to SACIS
b. 新規性 (originality)	originality of the work
c. 有用性 (significance)	significance of the work practicality in real world
d. 正確さ (quality)	technical accuracy
e. 構成と読みやすさ (presentation)	presentation quality
f. 参考文献 (reference)	
g. 査読者の当該研究分野への関連性 (confidence)	referee's confidence

+ ACS の、有用性 = significance の訳には、確かに違和感がある。

+ ACS の有用性 (significance) の説明は、有効性 (effectiveness) が客観的に示されているかどうかと読め、実用性 (practicality) とは異なるような気がする。

+ ACS の項目は、『通常の研究論文に加えて、実システムを用いた応用事例やベンチマークによる性能評価結果データ、などに関する研究論文も積極的に採用する。さらに、先端的基盤技術の視点から最新技術を横断的に展望するサーベイ論文の採録も行う。』という ACS の主旨を、必ずしも反映していないのでは？

「実用性 (practicality)」を加え、「有用性 (significance)」は「重要性 (significance)」に変えてはどうか？  
「新規性 (originality)」または「実用性 (practicality)」が高い論文を採録としたらどうか？

+ ACS の、正確さ = quality の訳にも違和感。

## 参 考 情 報

LaTeX スタイル・ファイル未使用 (E は英文, !は詰め込み) :

同 時 : 003E, 007, 010!, 016E, 022!, 026E, 027E, 028!, 036E, 040E, 045!, 052!  
単 独 : 403!, 404!, 408, 410!, 609!  
ポスター : 802!, 805, 807!, 809, 812, 816, 817, 821, 822, 823, 825, 829

同 時 :10/56 件 17.9%  
単 独 : 5/21 件 23.8%  
ポスター :12/29 件 41.4%

<a href="http://www.ipsj.or.jp/katsudou/journal/osirase4.html">新査読基準採用のお知らせ (学会誌  
39 巻 5 号会告抜粋)</a>

a. 論文誌研究分野への関連性 (relevance) # relevance to SACSIS

ACS 論文誌は「高性能計算」に関する広い範囲の技術分野をカバーしており、単なる計算の高速化だけでなく、計算の質的改善、利便性の向上なども「高性能計算」として位置付けています (詳しくは ACS 論文誌ホームページをご覧ください)。このような観点から関連性を採点して下さい。

b. 新規性 (originality) # originality of the work

従来提案されていないと判断できる新しいアイデアを提案しているか、既存アイデアを組み合わせたものでも自明ではない新しい利用法を提案しているか、あるいは技術的に新しい知見を与えるデータを提示しているか、などの観点から採点して下さい。

c. 有用性 (significance) # practicality in real world?

提案手法の有用性が性能評価等により示されているか、または製品化、あるいは公開された作品、プロダクト等 (ソフトウェア、ハードウェア等) で技術的有效性が客観的に確認されているか、という観点から採点して下さい。

d. 正確さ (quality) # technical accuracy

論文に記載された技術的内容に重大な誤りがないか、また提示されている評価データなどの信頼性は十分にあるか、という観点から採点して下さい。

e. 構成と読みやすさ (presentation) # presentation quality

章立て、論旨の明確さ、文章や図表のわかりやすさ、などの観点から採点して下さい。

f. 参考文献 (reference)

関連する研究について適切な文献を示しながら言及しているか、という観点から採点して下さい。

g. 査読者の当該研究分野への関連性 (confidence) referee's confidence

論文に記載された技術分野に対して、ご自身がどの程度深く関係されているか、関連する論文等を書かれたり読まれたりするご経験、などの観点から採点して下さい。

1.0 = absolute reject.	問題外、大きな誤り、SACSYS のテーマに無関係、等
1.5 = strong reject.	SACSYS の水準に遠く及ばない
2.0 = reject.	評価すべき点も少しあるが、SACSYS の水準には及ばない
2.5 = weak reject.	評価すべき点もあるが、SACSYS の水準には少し及ばない
3.0 = marginal.	何とか採録可能であるが、不採録になってもやむをえない
3.5 = weak accept.	枠があれば採録したい
4.0 = accept.	平均的水準の SACSYS 論文
4.5 = strong accept.	平均を上回る優れた論文。
5.0 = absolute accept.	大変優れた論文。